

ラオス国医療分野隊員  
巡回指導調査団報告書

平成11年3月

国際協力事業団  
青年海外協力隊事務局

JICA LIBRARY



1209180 [7]

青派一

JR

99-12

A

ARY



1209180 [7]

## 序 文

青年海外協力隊事業は、発足以来34年目を迎え、隊員の派遣数は17,000人を超え、派遣国は60カ国以上となっています。

なかでもラオス国は、協力隊を最初に派遣した国のひとつで歴史は古く、派遣は1965年に始まりました。開始以後、これまでに400人もの隊員を派遣してきましたが、中でも派遣の中心分野を占めてきたのは、医療分野です。ラオス国への医療分野隊員の派遣は、協力隊派遣開始とほぼ同時に始まり、現在は13名の隊員が活動しています。これは全派遣数の25%にあたり、他の派遣分野と比較しても大きな数字を示しております。これは、同国における医療水準が低く、基礎看護技術の普及、地域医療の充実が強く求められているためであり、保健医療分野における基盤整備は援助重点課題のひとつともなっております。隊員は各病院に配属されながら、看護婦、助産婦、検査技師等医療従事者の育成、衛生知識の普及等に取り組んでおり、その草の根レベルにおける活動は配属先から高く評価され、今後とも継続的な協力が期待されています。

このような背景を踏まえ、当事務局は平成11年3月8日から3月18日までの間、保健医療分野隊員巡回指導調査団をラオス国へ派遣しました。その目的は、現在の保健医療分野隊員の活動現場を巡回しながら、現在抱えている問題点を把握し、専門的な見地から助言を与えることにより、今後の協力をさらに実効あるものにする事です。

本報告書は、同調査団による調査結果を取りまとめたものであり、今後の同国における医療分野隊員の派遣を検討するにあたり、広く関係者に活用されることを望みます。

最後に、ラオス国へ派遣された隊員を始め、関係各位のこれまでの努力と成果に敬意を表すると共に、今回の調査にご協力いただいた方々に対し、心から感謝の意を表する次第です。

1999年3月

国際協力事業団  
青年海外協力隊事務局  
事務局長 望月 久



保健省との協議



ヴィエンチャン特別市保健局

同局スタッフとの協議





ボリカムサイ県立病院

病院正面玄関



院長との協議

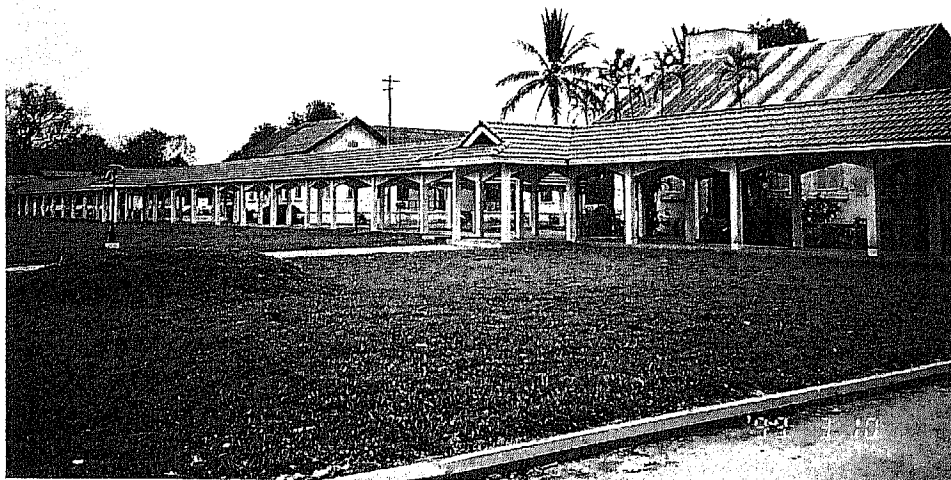
岩田隊員が現在取り組んでいる  
ドレッシング方法の改善について  
説明を受ける。  
(一番右は大庭隊員)







サバナケット県立病院



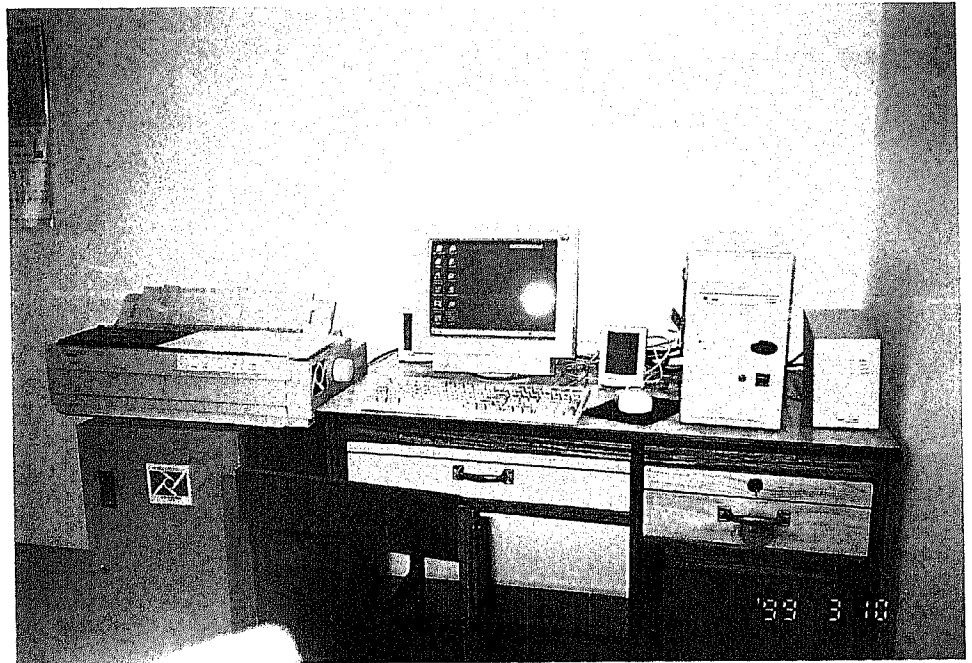
外来受付

院長との協議

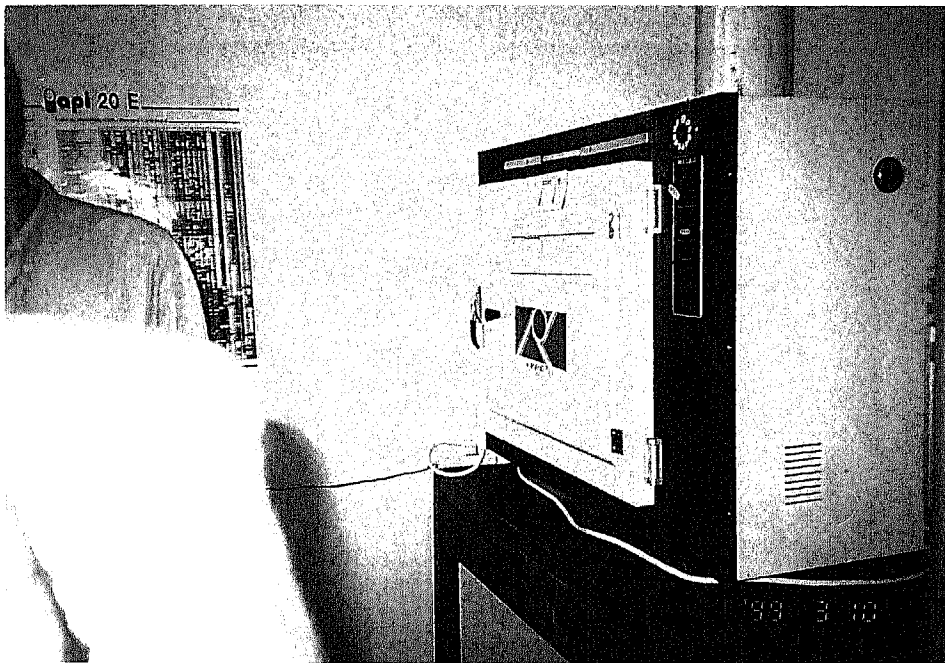




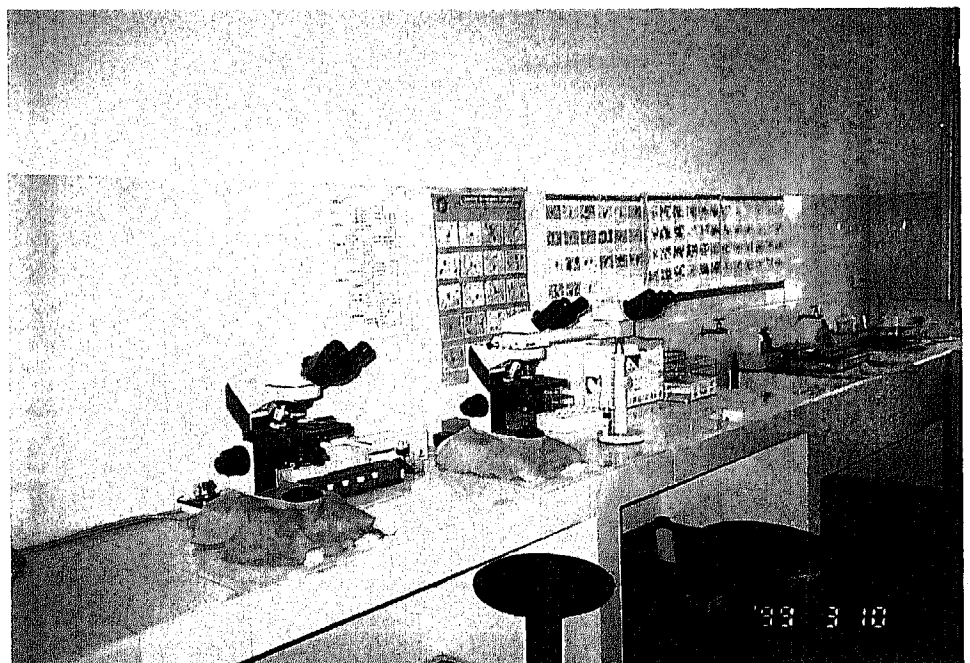
臨床検査室用  
コンピューター  
(フロントライン)  
学童検診データ処理に  
使われている。



ふ卵機  
細菌検査室  
(フロントライン)



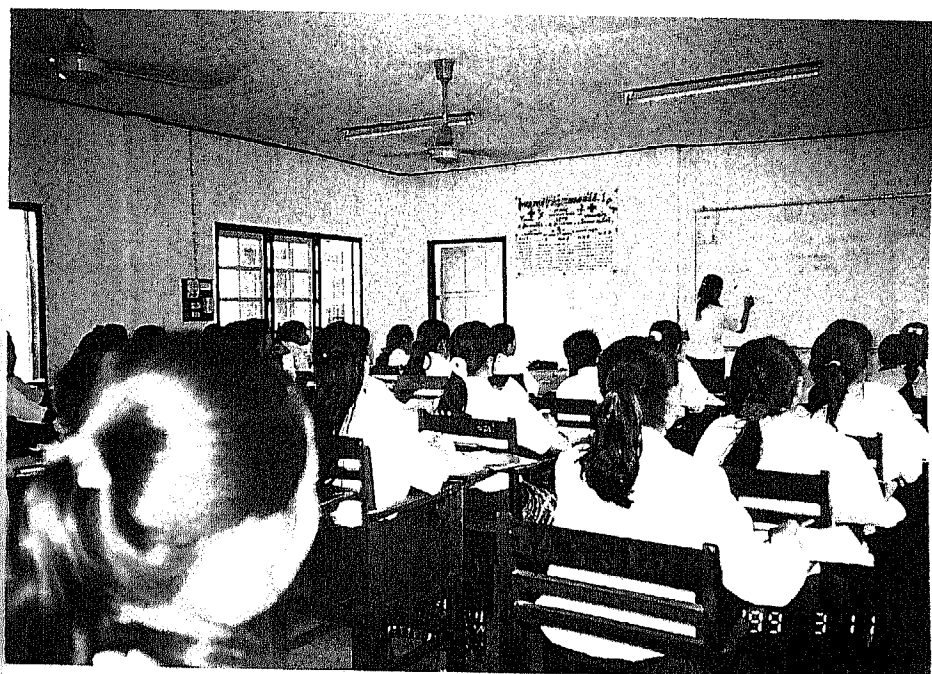
臨床検査室用  
顕微鏡 (隊員支援経費)  
県内郡病院スタッフ研修にも  
使われている。





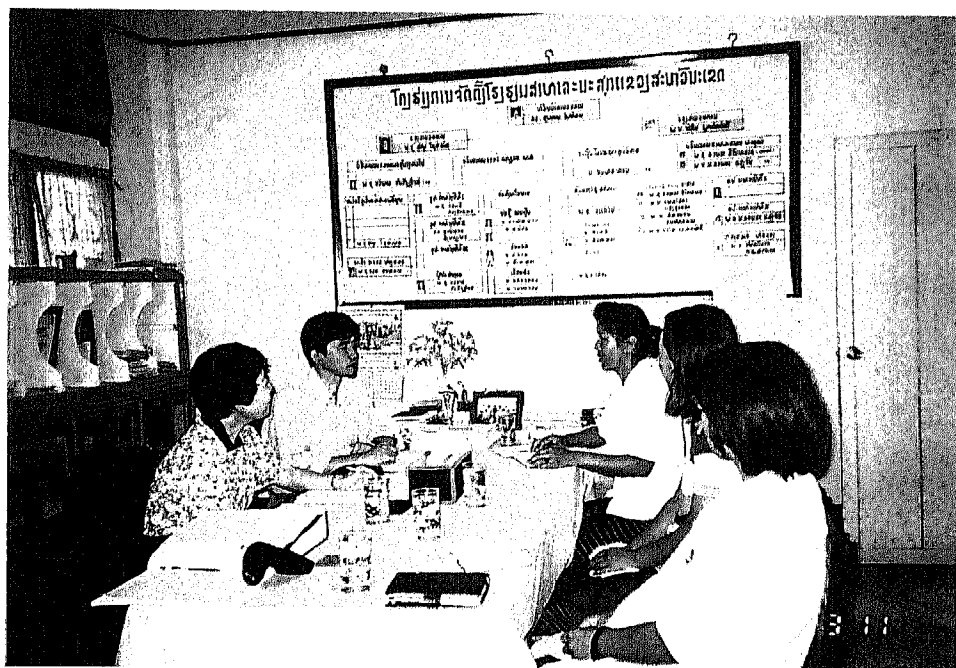
サバナケット県看護学校

正面玄関



授業風景  
(1年生)

副校長との協議

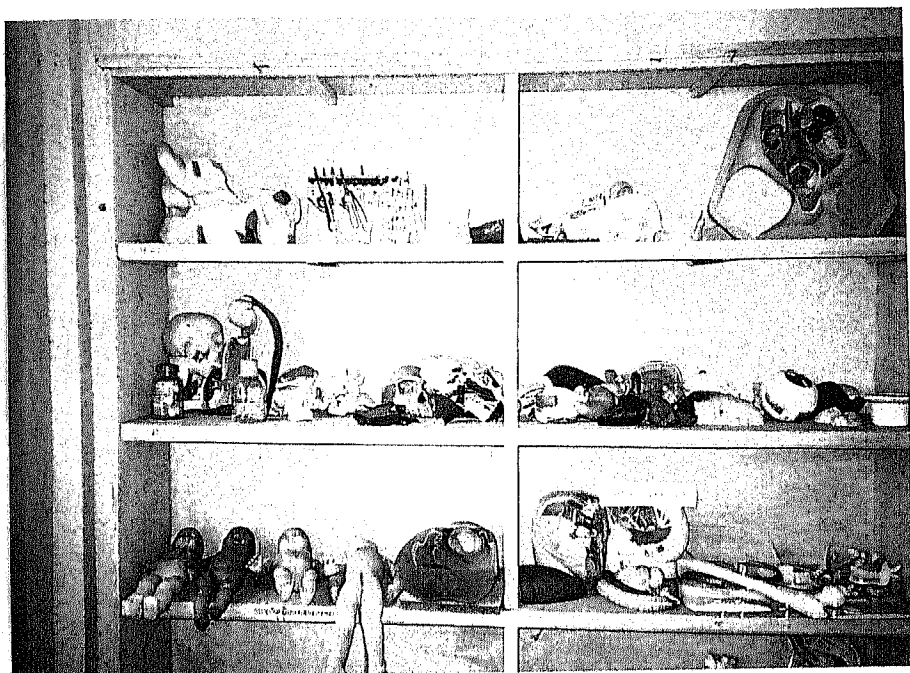
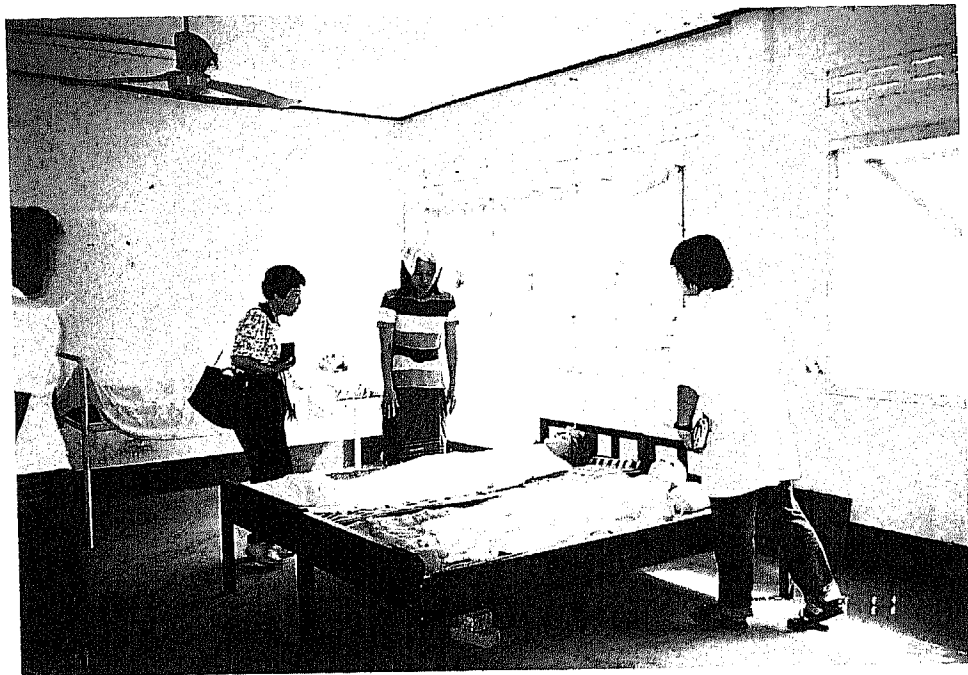




演習室

演習用人形は全部で  
3体しかなく、ほとんど  
使われていない。

(中央は内田隊員、右は隣接する  
サバナケット県立病院配属の  
渡利隊員)

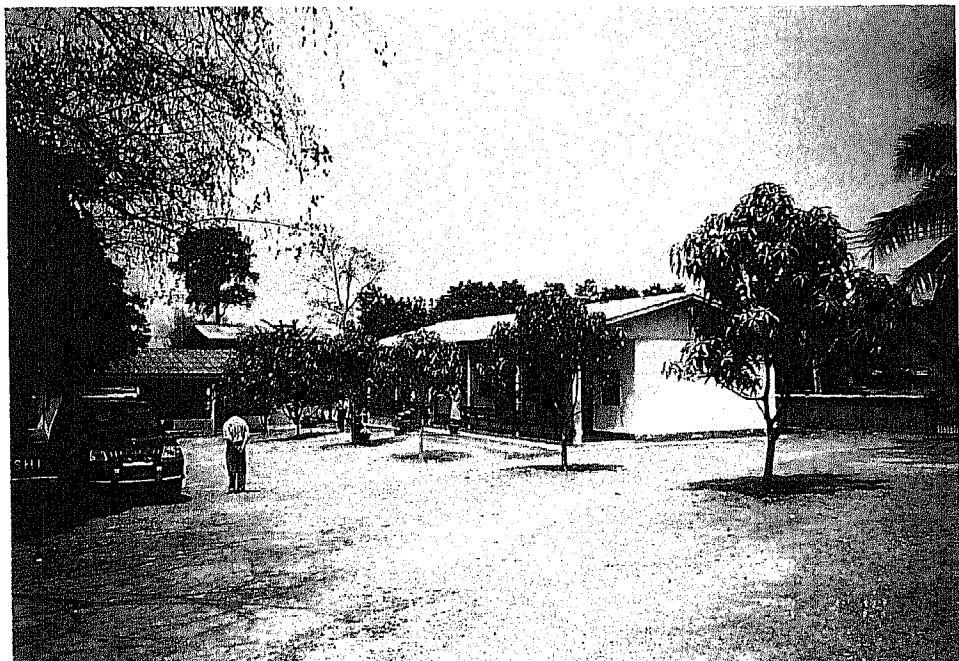


演習室模型  
(ほとんど使われていない。)

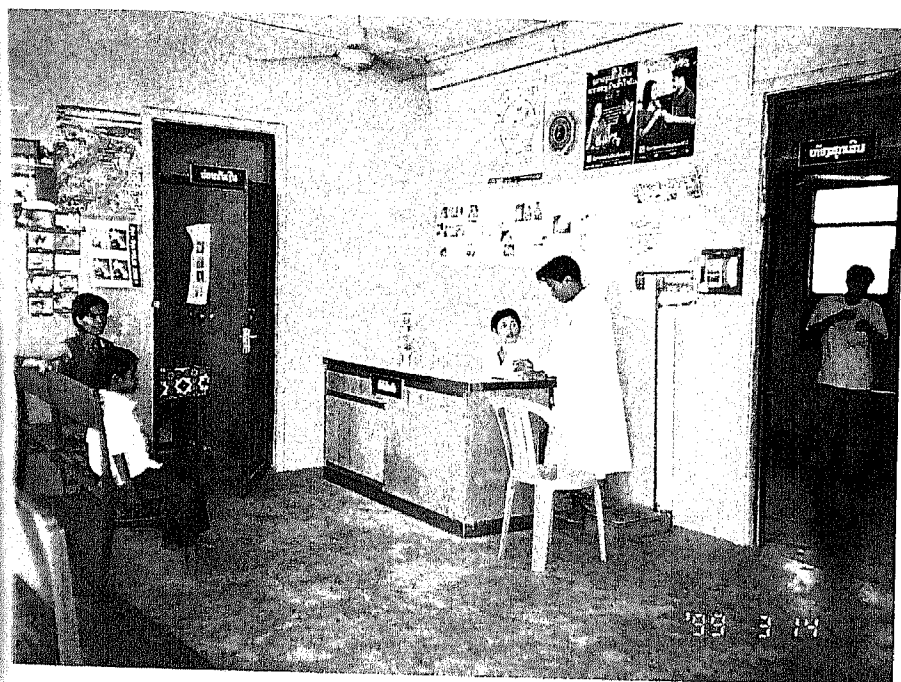




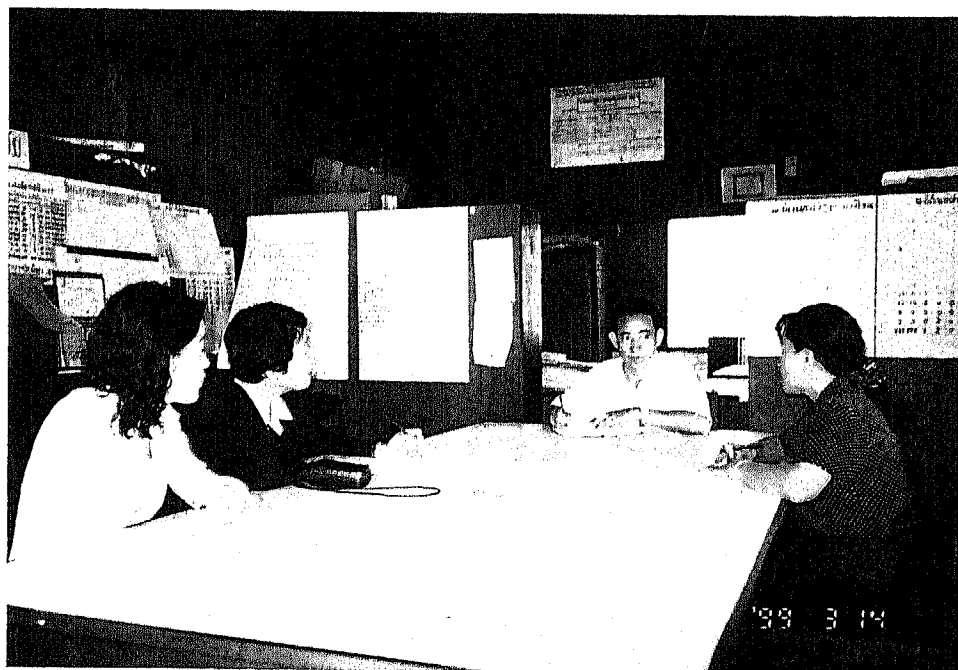
サイタニー郡病院



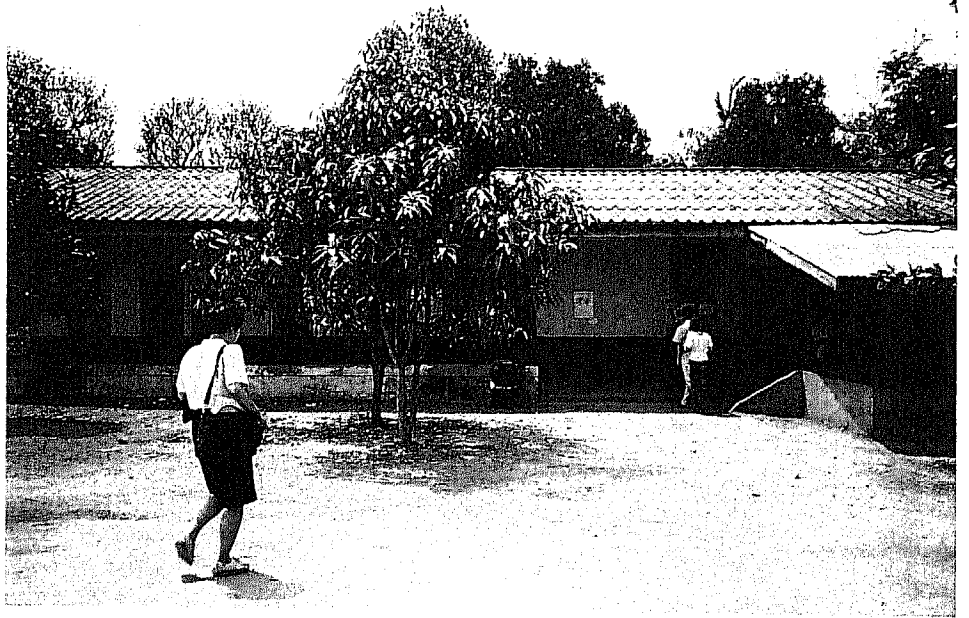
外来受付



院長との協議







隊員作成のポスター  
 (胎児心音用聴診器について、異常がある人は  
 無料、ない人は1回500キップ払えば  
 利用可能と説明している。集めたお金は  
 電池等の消耗品購入にあてている。)



隊員が作成した妊婦体操説明冊子。  
 (診察の順番を待っている人が読める  
 ように作成した。)



